

JAPAN HOUSEにおける多言語音声翻訳システムの活用

東京都

概要

2016 リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック期間中、オールジャパンによる東京／日本のPRを行うための「Tokyo 2020 JAPAN HOUSE」を開設した。その中の、東京都エリア及び文化体験エリアにおいて、国立研究法人情報通信研究機構（NICT）の協力を得て、外国人来場者とのコミュニケーションに、多言語音声翻訳システム（VoiceTra）を活用した。

Tokyo 2020 JAPAN HOUSE

- 日 時：オリンピック期間 平成28年8月5日（金）～ 8月21日（日）
パラリンピック期間 平成28年9月7日（水）～ 9月18日（日）
- 場 所：Cidade das Artes（シダージ・ダス・アルテス）
- 主 催：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
東京都、公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）、
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）



JAPAN HOUSE会場

多言語音声翻訳システム（VoiceTra）の活用

- 2016リオデジャネイロ競技大会に向けて、総務省・NICTは、2016年7月、ブラジルポルトガル語の音声入出力機能を追加した。
2016リオデジャネイロ競技大会期間中のJAPAN HOUSEを、実証の絶好の機会と捉え、VoiceTraを搭載したタブレットを活用し、現地外国人話者とのコミュニケーションに活用した。
会話例「東京の水道水は飲むことができます。」「何の競技を見ましたか？」／「日本の文化に興味があります。」
「2020年にできたら東京に行ってみたいです。」等
- 今後、翻訳精度等を解析し、2020年大会時の実用化に向けて、翻訳精度や利便性、ノイズ対策などの向上に繋げる。

